HAPPINESS IS HOME



タレント

山口もえ

食や衣類の循環を、楽しみながら暮らしに取り入れる山口もえさん。そこには、子どもたちが住む未来への願いがありました。

山口もえ（やまぐちもえ）

1977年東京都生まれ。バラエティー番組や情報番組、ドラマ、CMなどに多数出演。野菜ソムリエプロ、愛玩動物飼養管理士2級、ホリスティックビューティアドバイザーなどの資格も持つ。書籍に『山口もえのお野菜たっぷり!親子ごはん』（祥伝社）など。一男二女の母。

誰かがいれば、みんなが集まる。こたつの温もりが我が家の原点

趣味は物件探し。 風景の先に、新しい暮らしを描く楽しみ

実は私、物件の間取りを見るのが大好きなんです。街で素敵なマンションを見つけたら名前を覚えて帰って、空き部屋があるかチェックするのが習慣になっているくらい。特に、風が吹き抜けるような開放感のある部屋や、緑豊かな公園が近い場所に惹かれますね。「窓からはどんな景色が見えるんだろう」「ここでどんな生活が始まるのかな」と想像するのは、もう趣味みたいなものです。

思えば子どもの頃から、そうやって街の空気を感じるのが好きでした。習い事の帰り道に楽しみだったのが、いろんな家から漂ってくる晩ご飯の匂い。「今日は肉じゃがかな」「この家はカレーかな」なんて、扉の向こうにある食卓を想像しながら歩いていました。目に見える風景の先にある「誰かの暮らし」に思いを馳せること。それが、私にとっての街の楽しみ方なんだと思います。

そんな帰り道の習慣が毎日続いていたのも、当時の習い事が月曜日から土曜日まで埋まっていたからです。とにかく習い事が大好きな子どもでした。ピアノ、書道、箏、水泳、それから作文を書く塾。なかでも一番熱中していたのがクラシックバレエで、将来はバレリーナになりたいと思っていました。ただ、高校生になって男性とペアで踊るレッスンが始まると、「一人で踊りたい」と思うようになりました。思春期だったので、男性と密着して踊ることに抵抗があったんですね。そこで、ダンスレッスン生を募集していた、現在所属する芸能事務所の門を叩きました。

でも、実は私、そこがダンス教室だと勘違いしていたんです。慌てて帰ろうとしたら、たまたまその場にいた社長から「芸能界に興味がなくても大丈夫だよ」と言われたので、そのまま入所することになりました。最初は普通にダンスを習っていただけでしたが、次第に周りの子から「今度ドラマに出るの」「CMに出るの」という話を聞くようになり、楽しそうに見えました。だから、私もマネージャーさんに「何かオーディションを受けてみたい」と伝えたんです。

初めてのお仕事は、お味噌のCMでした。今と違ってCGなどは一般的ではないので、「味噌汁の湯気がおいしそうに沸き立つこと」を試行錯誤しているうちに８時間経過する……なんてことが普通にあった時代。なんとか食らいついて撮影が無事に終わると、メーカーの方から赤味噌、白味噌、合わせ味噌、豆乳のお土産を山ほどいただきました。それを持って帰ったら、家族がものすごく喜んでくれたんです。その姿を見て、「なんていいお仕事なんだろう」と思ったのが、この仕事を続けるきっかけになりました。

未来のために、 今できることを。無理なく楽しく続ける「食の循環」

家族と過ごす時間は昔から大事にしています。小さい頃の思い出は、こたつを囲んで冷凍みかんを作ったこと。ダンボール箱いっぱいのみかんを手に取り、皮をむく人、筋を取る人、ラップに包む人……という流れ作業を家族でしたことを今でも覚えています。こたつの温もりに誘われるように、自然と家族が集まってくる。そこで並んで何かをするのが、我が家の冬の定番でした。

その影響からか、今の家でも「ファミリールーム」と呼ぶ部屋を作りました。いわゆるリビングなんですけど、映画や紅白歌合戦を見たり、ゲームで遊んだりと、家族みんなが居心地よく集まれる空間です。子どもが成長するにつれ、「あと何年一緒にいられるかな」「いつかは家を出て行っちゃうんだろうな」と感じる機会が増えました。だから、一緒に住んでいる間は、なるべく一緒にいたいなと思ったんです。

子どもができてからですね、未来の地球環境について真剣に考えるようになったのは。「この子たちの未来のために、今、親である自分ができることは何でもやりたい」と強く感じるようになりました。

そのひとつとして実践しているのが、食の循環です。我が家では５人家族の食事から出る大量の生ごみをディス





生ゴミは、 次の野菜の栄養。 家の庭で、 おいしく循環しています

ポーザーで粉砕・乾燥させて堆肥化し、それを家庭菜園の肥料として活用しています。

私はガーデニングが好きで、最初はプランターで野菜を育てていたんですが、だんだん収まらなくなってきたので、「レイズドベッド」という畳１畳分の小さな畑を作りました。トマト、ナス、キュウリ、ラベンダー、タマネギ、ブロッコリーなど、季節の野菜や花を育てて、おいしくいただいています。金柑のジャムやコンポートを、友達にプレゼントすることもよくありますよ。

自分の食べたものが、次の食べるものへとつながっていく「エネルギーの循環」を日々感じられるのは、とても幸せなことだと思っています。

ほかには、子どもが大きくなって着られなくなった服や読まなくなった本を定期的に友達に譲ったり、リサイクルや寄付をしたり。家の中で物をためず、社会で循環するようにと心がけています。

友人たちも自分の家のようにくつろげる、安らぎの空間が我が家なら、 最高に幸せ

20代は仕事、30代は子育てをしていたらあっという間に過ぎ去ってしまいました。

40代の今もまだ子育ての真っ最中ですが、これから50代になって子どもが巣立った後、自分の人生にしっかり向き合うことが目標です。

人生100年時代と言われるなか、自分が残りの人生をどのように楽しめるのかを模索しているところです。趣味を極めるのもいいですし、もしかしたら芸能以外の仕事に打ち込んでいるかもしれませんね。

ただ、どんな活動をするにしても、やっぱり「人の集まる場所」に身を置いていたいです。今の家も子どもの友達や近所の方がよく遊びに来てくれるのですが、人によっては居心地がよく寝てしまったり、お風呂に入っていったりするくらい。

他人の家だってことを忘れて、ついつい長居しちゃうような、誰かにとっての安らぎの時間が我が家にあること。それが、私にとっての理想の家ですね。

インタビュー動画は住宅金融支援機構(JHF)
YouTube 公式チャンネルでご覧いただけます
https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4_r_69-mElwHrGxjyKXi